

公益社団法人日本地震工学会 第 57 回理事会議事録

A.日時：2022 年 4 月 8 日（金） 15 時 00 分～18 時 00 分

B.場所：建築会館会議室と Zoom によるオンラインのハイブリッド

C.出席者：（会長）清野純史，（副会長）山中浩明，藤田 聡，松岡昌志

（担当理事）米澤健次，西村拓也，樋口俊一，古屋 治，隈本邦彦，久保智弘，
鳥澤一晃，池田隆明，能島暢呂，市村 強，肥田剛典，近藤伸也

（監事） 五十田博

欠席：（担当理事）松島信一（監事）末富岩雄

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長，小松康典事務局長

D.議題および提出資料：

議題

報告事項

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1) 第 56 回理事会議事録（案）の確認（西村理事） | 資料 57-01 |
| 2) 会務報告（米澤理事） | 資料 57-02 |
| 3) 広報部会からの報告（隈本理事） | 資料 57-03 |
| 4) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事） | 資料 57-04 |
| 5) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事） | 資料なし |
| 6) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事） | 資料 57-06 |
| 7) 論文集編集委員会からの報告（能島理事） | 資料 57-07 |
| 8) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事） | 資料 57-08 |
| 9) 将来構想委員会からの報告（山中副会長） | 資料なし |
| 10) ESG 研究会開催(3/31)の報告（山中副会長） | 資料 57-10 |
| 11) 2021 年度業務執行理事の業務報告状況の確認（西村理事） | 資料 57-11 |
| 12) 16JEES 準備状況の報告（西村理事） | 資料 57-12 |

議案

- | | |
|---|----------|
| 第 1 号 入退会者（西村理事） | 資料 57-13 |
| 第 2 号 共催・後援・協賛等（米澤理事） | 資料 57-14 |
| 第 3 号 論文賞細則の改定について（松岡副会長） | 資料 57-15 |
| 第 4 号 令和 3 年度事業報告（案）（米澤理事） | 資料 57-16 |
| 第 5 号 令和 3 年度決算（案）（樋口理事） | 資料 57-17 |
| 第 6 号 次期理事会理事候補者の選出（米澤理事） | 資料 57-18 |
| 第 7 号 公益社団法人日本地震工学会第 10 回社員総会議事次第（米澤理事） | 資料 57-19 |
| 第 8 号 IC 委員会の令和 4 年度新委員の委嘱（米澤理事） | 資料 57-20 |

懇談事項

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 各表彰・感謝状について（米澤理事） | 資料 57-21 |
| 2) 社員総会・臨時理事会の運営分担について（米澤理事、西村理事） | 資料 57-22 |
| 3) 部会・委員会等の引継ぎについて（米澤理事） | 資料 57-23 |
| 4) 次期への申し送り事項（米澤理事） | 資料 57-24 |

E.議事録：

議題

報告事項

1) 第 56 回理事会議事録（案）の確認（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 57-01 に基づいて第 56 回理事会議事録（案）の確認が行われ、特に修正事項はないことが確認された。

2) 会務報告（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-02 に基づいて会務報告が行われた。特に異議なく確認された。

3) 広報部会からの報告（隈本理事）

- ・ 隈本理事より前回理事会より現在まで広報部会としての活動がなかったことが報告された。特に異議なく確認された。

4) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）

- ・ 久保理事より資料 57-04 に基づいて情報コミュニケーション委員会からの報告がなされた。
- ・ JAEЕ News No.372 の配信、JAEЕ NEWSLETTER 2022 年 4 月号の準備状況及び JAEЕ ウェブサイトのメンテナンスについての報告があった。池田理事と共同で 3/16 に発生した福島県沖地震の情報サイトを立ち上げた。また、新規に立ち上がった研究委員会のホームページの作成および更新を行った。JAEЕ ホームページのセキュリティ強化を実施中である。事務局の効率化を目指し、システムの更新、年次大会や JAEЕ 開催のイベントなどのオンラインでの申し込みへの対応も進めている。5 月に予定しているサーバー容量のアップ完了後、地震工学ニュースのアーカイブをアップロードする予定である。
- ・ 8 月までにオンライン申し込み申請システムの構築を完了する予定にしており、このスケジュールであれば今年度の年次大会に間に合うと考えている。特に異議なく確認された。

5) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事）

- ・ 鳥澤理事より会誌編集委員会からの報告がなされた。会誌 46 号の準備が順調に進んでおり、全執筆者から承認が得られた。次回の委員会にて 46 号の進捗確認及び 47 号の企画を議論する予定である。特に異議なく確認された。

6) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事）

- ・ 池田理事より資料 57-06 に基づいて国際委員会、地震災害対応委員会からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 地震災害対応委員会では、IC 委員会と協働し Web サイトから 3/16 に発生した福島県沖地震の情報を発信している。さらに土木学会との情報交換を行っている。
- ・ 国際委員会では NEWSLETTER の英文記事について 4 月号の原稿受領、8 月の執筆者を選定中である。8 月の執筆者について 17WCEE の受賞者から選定を考えているが、適任者がいれば推薦をお願いしたい。
- ・ 海外の地震工学関連学会との連携準備を進めており、土木学会にご協力いただき AOC、MOU の例を入手した。組織間の協定を結ぶ場合、基本は AOC を締結して進める。中には MOU だ

けで進めている学会もある。今後具体的な雛形を作っていく。

- ・ 群馬高専の井上先生が福島県沖地震の調査で現地へ入られたが、地震工学会としての調査を兼ねてということをお願いすればよかったかもしれないので、今後考えた方がよいとの意見が挙げた。報告会の費用負担の面も含めてどういう手続きをしていくべきかをチェックし、次回以降のために文書へまとめることとする。
- ・ 海外の学会との連携を進めたい。建築系の学会についての情報も収集する。

7) 論文集編集委員会からの報告（能島理事）

- ・ 能島理事より前回理事会からこれまでについて論文集編集委員会からの報告はないとのご報告をいただいている。特に異議なく確認された。

8) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事）

- ・ 肥田理事より資料 57-08 に基づいて事業企画委員会（企画）からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 第2回の機械学習に関するオンライン講習会の企画について報告があった。開催日は5/31とする。第1回の動画を視聴希望する受講者には有償にて視聴できるようにする。視聴は大学のWebサーバー上を利用し、You Tube は利用しない。今後参加申し込みを開始する。

9) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）

- ・ 山中副会長より、将来構想委員会からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 前回の理事会より委員会が1回開催され、4/8の午前中に実施。肥田理事が出席し、事業企画委員会について議論を行った。5月中までに最後の意見交換の委員会を開催し、年内もしくは今年度中に提言をまとめ、理事会へ提出する予定である。

10) ESG 研究会開催(3/31)の報告（山中副会長）

- ・ 山中副会長より資料 57-10 に基づいて、ESG 研究会開催(3/31)の報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 3月31日に強震動評価のための深部地盤モデル化手法の最適化に関する研究委員会が主催した「ESG6の国際ブラインド予測結果からESG研究の将来を考える」研究会が開催された。研究会ではESG6のプラインドプレディクションの結果とそのとりまとめ、ESG6から本研究会までに実施されている追加研究の状況を日本語で紹介した。その後、今後に向けたディスカッションを実施した。参加形態は現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式であった。参加者は委員を含めて68名であった。収入は参加費収入として256,000円であり、支出は会議室使用料、旅費、講師謝金およびZoom利用料を含めて、119,280円となり、収支はプラス136,720円となった。会場での参加者が議論を引っ張り、オンライン参加者がそれに加わるという形で活発な議論ができた。

11) 2021年度業務執行理事の業務報告状況の確認（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 57-11 に基づいて、2021年度業務執行理事の業務報告状況について報告がなされた。異議なく確認された。
- ・ 日本地震工学会の会長を除く全理事は業務執行理事であり、定款第22条第3項では、「会長及び業務執行理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で年に2回以上、自己の職務の執行の状況を、理事会に報告しなければならない」としている。総務部会にて2021年度の理事会の議

事録の記録より報告状況を確認し、定款第 22 条第 3 項を満たしていることを確認した。

- ・ 「報告がない」と報告されることも報告と解釈されるのではないかと意見が挙がった。

12) 16JEES 準備状況の報告（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 57-12 に基づいて、16JEES 準備状況の報告がなされ、特に異議なく確認された。
- ・ 4/4 に運営委員会準備会が開催された。運営委員会委員を選定中であり、各委員から参加への内諾を得ている。4 月に各共催学会へ共催、委員派遣を依頼する予定である。関東大震災 100 年がメインテーマであり、都市・地域の防災や安全に関する OS 等を共同企画することが期待できるため、運営委員会より日本都市計画学会へ 16JEES の共催を依頼したいとの提案があった。また、企業展示の出展料を 100,000 円から 150,000 円に変更してはどうかとの意見が挙がった。今後の予定としては、委託業者の選定を検討し、次回理事会で諮る予定である。委託業者も参加し、6 月に第 1 回運営委員会を開催予定である。シンポジウムの Web ページ立ち上げを 9/1（対象関東地震発生日）よりも前に立ち上げてアピールをしたいと考えている。
- ・ 日本都市計画学会への共催依頼についての提案は異議なく承認された。
- ・ 出展料の値上げについては、一度出展者に話を伺った方がよく、過去の状況より出展についての満足度はあまり高くないと感じ、値上げするのは良くないかもしれないとの意見が挙がった。実際の現地での展示状況と Web 併用によるインセンティブの与え方も検討する必要があるとの意見も挙がった。
- ・ 委員の力でどれだけ参加者を集められるかという観点で委員を選定するのがよいのではないかと意見が挙がった。
- ・ ESG6 の企業展示は松竹梅と種々の展示方法を設定した。例えば、ウェブ上でのバナー広告だけであるとか、スポンサードセッションを作る、あるいは動画を流せるなど、いくつかの段階を設ければ参加しやすいと考えられ、16JEES においても検討を進めてはどうかとの意見が挙がった。

上記の通り出席した業務執行理事より業務報告がなされた。

議 案

第 1 号 入退会者（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 57-13 に基づいて入退会者の報告がなされた。異議なく承認された。
- ・ 正会員は入会者 3 名、復活者 1 名、退会者 30 名であり、計 986 名である。学生会員は入会者 2 名、退会者 2 名であり、計 52 名となった。法人会員は退会 3 件があり、計 105 法人となった。個人会員の退会理由の内訳は、退職、異動および転職が約 6 割、経済的理由、高齢・病気、必要な情報が得られないがそれぞれ 1 割程度であった。
- ・ この時期は例年 30 名から 40 名の退会者がおり、今年度だけ特別に退会者が多いというわけではない。
- ・ 個人会員だけでなく法人会員の減少を食い止めるために、なんらかのアクションが必要かもしれない。次回の将来構想委員会では会員減への施策について議論を進める予定である。
- ・ 退職で退会される方が多い。その方々が退会しないような会費の枠組みの検討が必要であると将来像検討 WG にて議論に挙げられている。

第2号 共催・後援・協賛等（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-14 に基づいて後援 1 件、協賛 1 件が報告され、異議なく承認された。

第3号 論文賞細則の改定について（松岡副会長）

- ・ 松岡副会長より資料 57-15 に基づいて論文賞細則の改定について説明がなされた。前回の理事会にて論文賞細則の改定を懇談事項にて討議した際に、「英文化論文」という言葉はオーソライズされているのかとの質問があり、松岡副会長にて調査検討を行った。「論文を英語へ翻訳した論文を英文化論文と言う。」といった直接的な表記はないが、過去の事業報告を確認すると、英文化論文を出版したとの記載がある。また、論文投稿規程の中に「著者らにより英文化した論文を掲載する」という記載がある。これらより英文化論文という言葉を使うことは問題ないと判断される。論文賞細則の改定は異議なく承認された。

第4号 令和3年度事業報告（案）（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-16 により令和3年度事業報告（案）について説明がなされた。前回の理事会で内容は確認されているが、そこからの変更点は 2022 年 3 月末における会員数及び関連学会との共催・後援・協賛事業数の追記である。より詳細な資料である事業報告書資料編をホームページに掲載予定である。関連する部位を各理事にて確認し、修正箇所があれば 4/20 までに米澤理事、事務局へ連絡する。令和3年度事業報告（案）は異議なく承認された。

第5号 令和3年度決算（案）（樋口理事）

- ・ 樋口理事より資料 57-17 に基づいて令和3年度決算（案）について説明がなされた。
- ・ 流動資産のうち、貯蔵品であった出版物 122 冊を有姿除却した。固定資産では特別事業積立金が 755 万円となっており、昨年度から約 380 万円のプラスとなっている。WCEE の招致費用等により過去の年度で約 600 万円を支出した。その分を WCEE の余剰金から返還した。一方 WCEE と ESG において取り崩した支出が約 220 万あり、その差額が約 380 万円である。令和3年度の実績の収支はプラス約 780 万円であった。WCEE、ESG を除くと収入は 1,900 万円、支出は 2,300 万円程度であり、この部分について例年とそれほど変わっていない。IT 事業費支出は予算が約 138 万円に対して、実績が約 393 万円となっている。この理由は収支相償について配慮し、サイバーセキュリティの強化とシステム改修分の IT 関連経費を積み上げたことによる。公益目的事業会計の当期経常増減額はプラスとなり令和3年度の収支相償は未達であるが、収支相償未達が恒常的ではなく、来年度は収支相償がクリアできる見通しである。余剰金額が確定した段階で改めて内閣府より指導を頂く予定である。令和3年度決算（案）は異議なく承認された。
- ・ 監事監査会が 4/6 に実施され、五十田監事、末富監事から監査報告書が提出された。

第6号 次期理事会理事候補者の選出（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-18 に基づき、次期理事会理事候補者の選出について説明がなされた。今年度任期満了となる理事および来年度の新任理事候補者が紹介された。新任理事候補者は最終的には社員総会で承認されて就任となる。
- ・ 小檜山先生の所属を慶應義塾大学と修正する。次期理事会理事候補者の選出は異議なく承認された。

第7号 公益社団法人日本地震工学会第 10 回社員総会議事次第（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-19 に基づき、第 10 回社員総会議事次第について説明がなされた。
- ・ 開催方式について、一般会員はオンライン参加または議長に委任、運営スタッフは建築会館での現地参加、他の理事はオンライン参加とする。開会は 15 時とする。式次第は、会長挨拶、第 1 ～第 3 議案および第 1 ～第 4 号報告、臨時理事会とその報告、新副会長の挨拶とし、16 時半に終了予定である。
- ・ 各会員へ案内メールを送付し、欠席者には議長への委任状を提出いただく。社員総会開催をホームページにても告知する。
- ・ 各理事には極力参加いただくこととする。退任理事は後任理事へ出席の呼びかけをお願いする。
- ・ 4 月半ばに各賞の受賞者についてホームページに掲載する。社員総会では受賞者の発表を行う。第 10 回社員総会議事次第は異議なく承認された。

第 8 号 IC 委員会の令和 4 年度新委員の委嘱（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-20 に基づき、IC 委員会の令和 4 年度新委員の委嘱について説明がなされた。IC 委員会の令和 4 年度新委員の委嘱は異議なく承認された。

懇談事項

1) 各表彰・感謝状について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-21 に基づき、各表彰・感謝状について説明がなされた。功績賞 2 件の業績名称、功労賞 2 件、感謝状 1 件と贈呈理由、論文賞 2 件のタイトル、著者、論文奨励賞の受賞者、論文タイトルについて説明があった。社員総会において功績賞、功労賞及び感謝状は米澤理事より発表を行う。論文賞、論文奨励賞の発表は能島理事より発表を行う。推薦書についてはホームページに掲載される。確認をいただき修正事項があれば 4/20 までに米澤理事、事務局へ連絡する。
- ・ 吉田望先生の現在の所属は関東学院大学である。ご本人に所属の記載について確認を行うか、現職を記載し、旧所属も記載するのはどうかとの意見が挙がった。
- ・ 桑原光平氏の論文賞と論文奨励賞の論文タイトルが同じとなっている。論文奨励賞の論文タイトルを「機械学習を用いた日本全国の地盤の平均 S 波速度分布の予測」へ修正する。
- ・ 社員総会では受賞の発表のみを行う。表彰式・記念講演は年次大会で実施することとなっている。表彰では賞状を授与することが細則に記載されているので記念品等の副賞を授与することは現状ではできない。

2) 社員総会・臨時理事会の運営分担について（米澤理事、西村理事）

- ・ 米澤理事及び西村理事より資料 57-22 に基づき、社員総会・臨時理事会の運営分担について説明がなされた。
- ・ 米澤理事にて定足数を確認後、議長の指名（議長は清野会長）を行う。議長挨拶ののち第 1 号議案（令和 3 年度事業報告）は米澤理事、第 2 号議案は令和 3 年度収支決算報告が樋口理事、監査報告は五十田監事より説明を行う。続いて第 3 号議案（令和 4 年度理事の選任）は議長より説明を行う。引続き報告となり、第 1 号報告（令和 4 年度事業計画）を西村理事、第 2 号報告（令和 4 年度収支予算）を古屋理事、第 3 号報告（功績賞、功労賞、感謝状）を米澤理事より、第 4 号報告（論文賞および論文奨励賞）は能島理事より説明を行う。その後令和 4 年度の理事は臨時理事会の別の Zoom 専用サイトへ移動し、臨時理事会に参加する。
- ・ 臨時理事会では議長を清野会長、進行・議事録作成は西村理事が行う。臨時理事会後は社員総

会のサイトへ戻り、臨時理事会の報告を西村理事が行い、新副会長の東氏からの挨拶をいただき、散会となる。

- ・ 社員総会の議事録の作成を例年の業務担当理事より、古屋理事と近藤理事が担当することとし、了解が得られた。
- ・ 社員総会における会員数は本理事会時点の人数とする。
- ・ 功労賞の受賞者は 17WCEE 組織委員会／運営委員会とする。受賞者は社員総会に出席する必要はない。年次大会で授賞式と記念講演を行う。

3) 部会・委員会等の引継ぎについて（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-23 に基づき、部会・委員会等の引継ぎについて説明がなされた。
- ・ 各部会、委員会は次回の理事会（6/17 開催）までに業務の引継ぎを行う。現委員が任期満了の場合は、現理事が中心となり、必要ならば新理事と連絡を取りながら新委員の人選を進める。引継ぎの際に現状にそぐわない定款・規則等は改定を検討する。事業報告書、事業計画書、会計資料等の関係資料が必要な場合は事務局へ依頼する。6 月上旬に次回理事会の議事次第を各理事・監事へ送付予定である。次回 6/17 理事会はハイブリッドでの開催予定とすることが了承された。

4) 次期への申し送り事項（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-24 に基づき、次期への申し送り事項について説明がなされた。
- ・ 新規事務局員の募集が難しく、小松氏には引続き現体制での勤務をお願いしたい。事務局の長期的な継続体制を構築したい。引続き今後も支援をいただきたい。
- ・ 16JEES は予算規模が大きく、予算管理を的確に行う必要がある。またコロナ禍での開催形式の変更に備え、外注のキャンセルポリシーに留意し、その場合の損失を最小限とするよう努めたい。積立金の有効活用を進めたい。一般向け企画は地震学会との共同開催であるが、来年度の理事の中から共同開催の窓口担当が必要である。年次大会は早めに準備を進めたい。受賞表彰として 1 セッション設け、表彰式および受賞記念講演については総務部会が担当し、IC 委員会および広報部会の協力を得て実施する。
- ・ オンライン開催に対するシステム類の整備をさらに進めて、今後のイベントのためにノウハウを蓄積していく必要がある。
- ・ 積立金の有効利用を検討する必要がある。将来像検討 WG の議論を踏まえ具体的なアクションにつなげる。収入源となる事業を企画する。広報活動が活発化してきており、今後の活動維持のためのマニュアル改定、引継ぎを行っていききたい。
- ・ 年次大会の開催告知はいつ頃かとの質問が挙がった。昨年度は 8 月に会員ヘーミングリストで告知を行い、ホームページを開設した。事務局にも年度の初めに問い合わせがある。告知を早めた方がよいとの意見があることを市村理事より次回の大会実行委員会委員長へ引継ぎ事項として伝える。大会実行委員会は毎年ゼロから立ち上がるが、長期的な活動ができる視点で大会実行委員会を進めていただくようにも次回の委員長へ申し伝える。
- ・ 年次大会のフォーマットを論文集形式に変えたが、そのまま投稿されているかどうかはカウントしていない。査読のハードルが高いので、そのまま論文集へ投稿するのは少ないかもしれない。ページ数は 6～8 が多い。年次大会の投稿内容をブラッシュアップして論文集に投稿することを勧めるように、年次大会の投稿関連の文書のどこかに記載したい。
- ・ なんとか年次大会に足を運んでもらうように、東京以外での開催を企画した。どのような会員が集まるかを確認し、よければ 2 年に 1 度ぐらいは東京以外で企画することを考えたいが、次

回の年次大会の出席状況を見て判断したい。

5) 事務局員就業規則の改定について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 57-25 に基づき、事務局員就業規則の改定について説明がなされた。現状は 8 年前に規定された号俸表に従っていた。昨今の社会情勢を反映し、業務報酬の号俸表を 3% アップする。会長と総務理事の判断で号俸表を決定できるが、以前の理事会でご承認いただいた就業規則に記載されているために、理事会でも承認をいただきたい。また、事務局の働きやすい環境を整えるため、テレワークの活用による業務を認めるように改定する。事務局員就業規則の改定は異議なく承認された。

6) その他

- ・ 退任される理事よりご挨拶をいただいた。

次回予定：第 58 回理事会 6 月 17 日（金）16 時～19 時

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 清野 純史

監事 五十田 博